

2006年度（後期） 学生による授業評価アンケート調査
「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	熊谷滋子	
講義番号	B152		担当科目名	比較言語文化各論II	
開講曜日	火曜日	1・2時限	○専門科目 ・ 全学教育科目		
授業回数	12回	休講回数	1回	補講回数	0回
受講登録者数	32人	成績評価対象者数	28人	授業放棄者数	4人
成績評価に際し注意した事項					
スピーチ、小レポート、期末レポートなどを参考にし、なるべく様々な観点からの評価					
報告内容					
<p>このクラスは、メディア・リテラシーに着目し、ことばがテレビ・新聞・雑誌・映画・広告等のメディアでどのような状況にあるのか、具体的に検討することを念頭において、行なってきた。メディアといっても、様々なものがあるため、すべてを網羅することは不可能であるが、それでも、今回の授業の反省としては、予定していた項目を時間の都合で扱えなかったこと、また、近年、特に若者を魅了していやまないインターネット上のことばについて考えるチャンスをもうけなかったということである。しかし、受講生のスピーチでは、インターネット上のやりとりや最近の話題が紹介され、問題指摘もされていたので、そのスピーチをきっかけに、私自身が勉強することができたことが収穫であった。</p> <p>今回のアンケートは、全体的に可もなく不可もなくという感じであり、受講生はこのクラスをよくチェックして、評価していると思われる。反省点としては、「問10 学習の雰囲気・秩序を保とうとしていた」という設問への評価が低く、それに続き、「問2 板書が読みやすい」「問5 開始・終了時間を守る」という設問がかんばしくない。今後の授業のやり方を工夫しないといけないと実感している。</p> <p>学習の雰囲気や秩序については、特に、これからの授業展開において、工夫しなければならないものがあり、そのための方策を検討してみたいと思っている。受講生の人数に見合った教材の提示や説明なども含め、FDからのアドバイスも含め、考えてみたいと思っている。</p> <p>メディアをめぐるものは、日々作り出され、時にはドラマティックに、時には淡々と、様々な形で作られているし、また、消えていく。1年前に何があったか、忘れてしまうほどである。そのような泡沫のようなメディアの中から、ことばを通して、何を教訓として得ていくのか、受講生とともに考えていく必要があると、ますます思うようになっている。むしろ、若い人たちの視点を、私自身が学ぶべきだという気持ちがこのクラスをしてみて、あらためて感じている。</p> <p>もっと双方向のやりとりを増やしながら、ともに授業を作り上げていくという姿勢をもちたいとおもうクラスであった。受講生のスピーチや小レポート、期末レポートなどから、学生の興味・関心の深さを知るクラスでもあった。</p>					